想い出の名バイプレーヤー 9 Air Dublin

エアダブリン

1991年4月21日生　牡　鹿毛
父:トニービン
母:ダンシングキイ(母の父: Nijinsky)
千歳・社台ファーム生産
調教師:伊藤雄二(栗東)
馬主:吉原貞敏氏→(株)ラッキーフィールド

力感あふれる名ステイヤー

生涯に15戦を走り、一度も掲示板を外さなかったエアダブリン。途中で勝負を捨てることなく、ひたすら前へ、ひとつでも上へ。バテない。止まらない。あきらめない。それがこの馬の本領だった。しかも、スローな展開から上がり勝負になりがちな近年の長距離戦にあって、エアダブリンの走りは異質。厳しいペースのなかで自分から動いてポジションを上げていき、直線では前の馬を着実にねじ伏せる。そんな、力感あふれるレースを見せてくれた。

青葉賞は、スタート直後は後方、向こう正面からジワジワと進出、4コーナーでは2番手集団に取りつくという、流れを無視したような競馬。各馬が大きく広がり死力を尽くしてゴールを目指す直線では、ひときわパワフルな末脚を繰り出して1着をもぎ取った。またステイヤーズステークスは、よどみのないラップで隊列を引っ張ったシュアリーウィンを好位から競り落としての勝利。勝ち時計3分41秒6は、樹立から20年以上を経たいまなお中山芝3600㍍のレコードとして残るタイムだ。

ダイヤモンドステークスもまた、この馬の真価があらわれた一戦。やはり坦々とマイペースで駆けるシュアリーウィンを、離れた2番手で追走。3コーナーから差を詰め始めると、逃げ馬も負けじとペースアップ、直線では一騎打ちとなる。エアダブリンはトップハンデの59㌔、かたやシュアリーウィンは55㌔。4㌔の差などものともせず、残り50㍍で相手を交わしたエアダブリンは重賞2連勝を飾ったのだった。

もちろん、バテない、止まらない、あきらめない走りが頂点につながるとは限らない。日本ダービーと菊花賞ではナリタブライアンに一瞬にしてちぎられ、クラシック三冠達成を見届ける役割に甘んじた。天皇賞(春)では、3コーナー先頭から粘り抜くというライスシャワーの強引なレースぶりを目撃。自分よりもさらに積極的で、自分よりもスタミナに富む馬が存在することを思い知らされた。宝塚記念は、内から抜け出したダンツシアトルとこれを交わそうとするタイキブリザードを猛追するもクビ、クビ差の3着まで、惜敗の涙を呑んでいる。

ただ、決して勝負をあきらめないエアダブリンのような馬がいたからこそ、ナリタブライアンやライスシャワー、ダンツシアトルの強さも引き立ったのだ。ダンスパートナー、ダンスインザダーク、ダンスインザムードら弟妹たちの活躍も、兄エアダブリンが身をもって示した「最後の最後まで」という走りを受け継いだからといえるのではないだろうか。

1994年★第1回テレビ東京杯青葉賞(GⅢ)　1コーナー12番手から4コーナーでは2番手まで進出、直線でも確かな末脚を披露したエアダブリン(帽色・緑)が優勝。"王者"ナリタブライアンに挑戦状を叩きつけた。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1993.10. 9	東京	3歳新馬	芝1800	5	1:52.3	岡部幸雄
10.31	東京	3歳新馬	芝1800	1	1:49.3	岡部幸雄
12. 4	阪神	エリカ賞	芝2000	1	2:04.2	岡部幸雄
1994. 3.19	中山	若葉S	芝2000	4	2:03.2	岡部幸雄
4.30	東京	テレビ東京杯青葉賞(GⅢ)	芝2400	1	2:28.8	岡部幸雄
5.29	東京	東京優駿(GⅠ)	芝2400	2	2:26.6	岡部幸雄
9.25	中山	ラジオ日本賞セントライト記念(GⅡ)	芝2200	3	2:16.6	岡部幸雄
10.16	阪神	京都新聞杯(GⅡ)	芝2200	3	2:12.3	岡部幸雄
11. 6	京都	菊花賞(GⅠ)	芝3000	3	3:05.8	岡部幸雄
12.10	中山	スポーツニッポン賞ステイヤーズS(GⅢ)	芝3600	1	R3:41.6	岡部幸雄
1995. 1.28	東京	ダイヤモンドS(GⅢ)	芝3200	1	3:17.8	岡部幸雄
4.23	京都	天皇賞(春)(GⅠ)	芝3200	5	3:20.4	岡部幸雄
6. 4	京都	宝塚記念(GⅠ)	芝2200	3	2:10.3	四位洋文
1997. 4.27	東京	メトロポリタンS	芝2300	2	2:19.1	四位洋文
6. 7	東京	目黒記念(GⅡ)	芝2500	3	2:32.8	四位洋文

※レース名は当時の表記による

1994年★東京優駿(GⅠ)(第61回日本ダービー)ナリタブライアン(帽色・桃)の豪脚の前に、エアダブリン(帽色・黒)は為す術もなく5馬身差の2着に完敗。

1995年★第36回宝塚記念(GⅠ)　ゴール前は3頭の激しい追い比べとなったが、最後はダンツシアトル(帽色・白)、タイキブリザード(帽色・黄)に後れを取り、エアダブリン(帽色・黒)は3着に敗れ去った。